

# ◆2026年度 中学入試 第3回【理科】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	67.6%	81.0%	動物の体のつくりと、それに基づく生物分類について問うものである。 ヒトをはじめ、教科書ならびに身近な動物についての基本的事項を問題とした。	基礎基本を聞いた問題であるが、漢字のミスや覚え間違いなどが顕著に表れるものとなった。 生物名のみをヒントに分類を行う(4)以降については、受験生によってはどんな生き物かを想像することができなかつたと推定できる。
	(2)	79.2%	83.3%		
	(3)	95.4%	92.9%		
	(4)	93.4%	92.9%		
	(5)	33.6%	33.3%		
	(6)	87.3%	92.9%		
	(7)	93.4%	100.0%		
	(8)	77.2%	78.6%		
	(9)	96.9%	95.2%		
	(10)	71.8%	78.6%		
2	(1)	65.3%	83.3%	太陽の動きや星座と星の関係について問う内容である。太陽の動きは、影のつき方や太陽の位置を観測した結果から方角、時刻、季節による違いを考えて解答を導き出す問題とした。星座と星は、1等星の色、冬の大三角の星と星座の関係、北斗七星と北極星の位置関係の基本事項を確認する問題とした。	太陽の動きは空間把握が必要であり、苦戦した受験生も多かったのではないかと推測される。(1)のように、基本的な内容であっても組み合わせで解答を選択する問題は、正答率は低くなるという傾向は例年と同様であった。(6)は、観測結果を用いることと計算力が必要であったためか、正答率は非常に低かった。(11)は、星の探し方の基本事項ではあるが、観察した経験がないため全体の正答率の低さが目立った。
	(2)	66.0%	71.4%		
	(3)	76.4%	92.9%		
	(4)	57.9%	66.7%		
	(5)	52.9%	66.7%		
	(6)	42.9%	42.9%		
	(7)	65.6%	85.7%		
	(8)	66.0%	81.0%		
	(9)	91.5%	97.6%		
	(10)	84.6%	92.9%		
	(11)	45.6%	61.9%		
3	(1)	86.9%	90.5%	ものの溶け方と水溶液の性質について問う内容である。 ものの溶け方については基本から思考力を問う問題とした。水溶液の性質については、知識を問うものではなく、与えられた条件から何が起きているのかを考えられるかを問う問題とした。	(3)の「さらに食塩を何gまで溶かすことができるか」という問題で、すでに正答率が激減していたので、(6)、(7)はかなり難しく感じられたと思われる。(5)の与えられた条件から水溶液の温度変化を示すグラフを選ぶ問題であったが、正答率が低かった。
	(2)①	89.2%	100.0%		
	(2)②	83.4%	100.0%		
	(3)	13.1%	23.8%		
	(4)	66.4%	71.4%		
	(5)	44.4%	35.7%		
	(6)	7.7%	19.0%		
(7)	6.9%	16.7%			
4	(1)	91.9%	90.5%	電気とエネルギーについて、定性的なことを問う内容である。 現象について基本的な仕組みを理解していれば、容易に類推できる実験内容をテーマとした。	電気回路の定番的なものであり、そもそもの「電気の性質を調べる実験」という問題設定、文中で電球の回路素子的な性質を定義していることもあって、不慣れでも順当に読み進めていけば複雑な回路構成でも正答できる構成であった。 特に(4)や(5)①②などの並列つなぎが介在する回路における電流の問題に顕著な差が見られ、電気という目に見えない現象に対する概念理解の有無が大きな点差につながつたと推定される。
	(2)	87.6%	95.2%		
	(3)	81.1%	83.3%		
	(4)	57.9%	66.7%		
	(5)①	50.2%	76.2%		
	(5)②	64.9%	90.5%		
	(6)	93.8%	100.0%		
	(7)	83.8%	95.2%		
	(8)	80.3%	90.5%		
	(9)①	72.2%	90.5%		
(9)②	91.1%	100.0%			